

環境だより



環境課 ☎66・1121

食べ残しを減らしましょう

日本の食糧自給率は約40%と低く、世界中から食料を輸入して暮らしている状況です。それにもかかわらず、日本人はたくさんのお米を食べ残し、生ごみとして捨てています。世界で食糧危機が叫ばれている中、無駄の多い生活は見直していかなくてはなりません。

生ごみをお宝に

ただし、どんなに食べ残しを少なくしたとしても、どうしても生ごみは出てしまいます。市内で発生する生ごみの量は1年間で約4千トンにもなりますが、そのほとんどは

生ごみの有効利用

燃えるごみとして捨てられています。しかし、この生ごみも堆肥化容器を使って簡単に「有機肥料」に生まれ変わります。家庭菜園でこれを使えばおいしい有機野菜が収穫でき、植え込みに使えば元気な木が育ちます。そんな「お宝」のもとを生ごみとして燃やしてしまうのはもったいないと思いませんか。生ごみを堆肥化してリサイクルすることは、ごみの減量になり、クリーンセンターで焼却するための経費も節約できます。

堆肥を作ってみませんか

市では、生ごみを有効利用してごみの減量を図るため、生ごみ堆肥化容器を購入した方に、補助金を交付しています。市内在住の方が、「容量100リットル以上のコンポスト容器」「容量9リットル以上のぼかし容器」「生ごみ処理機(手動も可)」のいずれか1種類を市内の業者から購入する場合に、購入金額の45パーセント(100円未満切り捨て、上限額あり)を補助します。詳しくは、環境課へお問い合わせください。

水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

アシカトレーナーの世界

も何度も繰り返し教えなければならぬのですが、何もしない動物にイチから芸を教え込むのは本当に大変な事です(犬を飼っている方ならご理解いただけるかと思いますが)。まして、私たちの相手は、昔から人間とともに暮らしているペットではなく、海で生活する「アシカ」なのです。

そして、芸を教える上で最も厄介な問題は、彼らが「噛む」ということです。実は先日、私は1番気の強いラックに初めて噛まれました。幸いにもケガはなかったのですが、噛まれたデニム生地ズボンが、股からくるぶしまで一瞬にして破れました。噛まれた瞬間は、何が起きたか理解できずに頭の中は真っ白。その後すぐに恐怖に襲われました。

毎日楽しく、そして当たり前のように上演しているアシカショー。しかし、その愉快なショーの裏には、実はトレーナーとアシカによる並大抵ではない努力が隠されているのです。